

群馬交響楽団コンサート

ボレロ～輝ける映画音楽

日時 10月30日(日) 午後2時開演

会場 かぶら文化ホール

入場料 ▷前売 一般2,000円・高校生以下1,000円

▷当日 一般2,500円・高校生以下1,500円(全席自由)

指揮 竹本泰蔵 司会 矢崎滋

予定曲目 ダイハート2、パイレーツ・オブ・カリビアン、ロミオとジュリエットほか

問い合わせ かぶら文化ホール(☎60-1230)

※この公演の入場料は、宝くじの助成により特別料金になっています



お出かけください

「原爆と人間展」

本市は、すべての国の核兵器に反対し、非核三原則を堅持し、人類の平和のため努力することを決意して、「非核平和都市」を宣言しています。そこで、広く原爆被害の事実を伝え、平和な社会を実現するため、「原爆と人間展」を開催します。

日時 8月5日(金)～17日(水)、午前9時～午後5時
(8月8日(月)休館日を除く)

会場 生涯学習センター・あい愛プラザ

内容 原爆被害の事実を伝えるパネル展示

問い合わせ 総務課安全安心担当(☎内線1224)

風景・街並みの写真コンクール

作品募集 テーマは「私の好きな風景」

市では景観についての意識を高めていただくことを目的として、「私の好きな風景」をテーマにした写真作品を募集します。暮らしのなかで目に触れた市内の美しい風景や街並みなどを撮影してください。作品はまちかど遊YOUプラザで展示します。

募集作品 カラー四つ切りサイズ1枚(組写真は不可)で、1年以内に撮影した未発表のもの。デジタルの場合は、インクジェットプリンタ出力も可。出力用紙は、A4(21.0cm×29.7cm)サイズの写真用紙を使用すること。画像加工した作品は不可。パネル・額装は不要。

応募点数 1人2点まで

応募資格 どなたでも応募可能です。

応募方法・問い合わせ 応募要綱(都市計画課景観担当もしくは市ホームページで入手できます)を確認し、9月20日(火)～30日(金)に、郵送もしくは持参してください(〒370-2392 富岡1460-1 都市計画課景観担当 ☎内線1475)。



入選作品展示会 11月1日(火)～7日(月) 午前9時～午後5時。まちかど遊YOUプラザで行います。

作品の返却 11月9日(水)以降に、都市計画課景観担当へ受け取りに来てください。3カ月を経過したものは処分します。

市民の文芸

詩

折り

私は時々 人間って何て不思議な動物なんだらうと 思う

十七歳の時 国は八年戦い 戦に敗れた都市は廃墟と化し 飢えと絶望に覆われた 忠君愛国から民主主義へ 何が真実なのか 闇の世界へと迷い込んだ 寺を訪ね 学校の教師にも求めた 光は 見つからなかった

生きる苦しみ閉ざされ 神に縋った

私の体は宇宙と一体になり 不思議な気持ちにとらわれ その日から心に 安らぎが戻ってきた

安らぎの先には 澄みきった平常心があった 若い日の絶望と苦悩は 幹から伐り離れた 枝の悲鳴であった

宮前利保子選

(七日市) 佐々木幸作

短歌

宮前しづも選

※作品を募集しています 応募する部門名・氏名・住所・電話番号を明記し、はがき・封書・Eメール・ファクスで、秘書課市民の文芸係へ。

白山の雪解け水に早苗田は合掌造りを逆さに映す

「良い世話をしたから悔いはないでしょう」言はれて諾ふ父の新盆

躑躅咲き山吹のさく霧積みの湯に入り災ひをしばし忘る

白髪の商品よき媪の店に買ひし鎌倉彫りの箸使ひて久し

若きより剣道一筋に精進し遂に七段手中にせし叔父

肺炎の時を越へし午前二時病室の窓に満月を見る

機織りて仕立てし着物古りたれば腰紐にして母は残せり

紫陽花は青が好きと言ひし友に命日の今日その花供へぬ

六月の猛暑つづけるわが畑の茄子に無駄花多く咲きたり

群馬県百名山に選ばれし宗台山に朝の草刈る

俳句

高橋洋一選

滝の音聞こゆる友の描きし絵

白丈の音細くなる猛暑かな

紫陽花の毳まだ青く雨を待つ

梅雨の空草の匂ひも重くなる

草笛のひびく小雨の懐古園

稚児を背に旗ふる初夏の通学路

窓越しに威の見ゆ飛翔夏つばめ

見えぬ目や触れどもぎ取る曲り瓜

越後にて浸る足湯や鯉の声

雨上りメモを頼りに梅漬ける

川柳

猛選

欲しかった手鏡笑顔だけ映す

熱帯夜冷えたビールの一気飲み

バスの窓右に左に見るツリ

丹精の百合の命は短くて

夢の中ヨガの呼吸で息苦し

愛猫は花火の音に雲隠れ

野良ばなし昔も今も土手あぐら

精農の誇りが消える三代目

太らない暗示をかけてまたバク

市長杯グラントゴルフ和が育つ

近代産業の夜明け

富岡の明治維新

104

生糸相場はまさに生き物である。糸価の高騰がある半面急落にも直面する訳であるが、戦後糸価が初めて高騰したのが昭和25年であった。

富岡工場ではこの対応策として従業員の2交代制を取り入れ、早番組と遅番組に分け、それぞれ8時間45分態勢をとる一方、従来の20口(緒)多糸式繰糸機の他に、初めて自動繰糸機を導入して生産性の向上を図ったのである。この年度における富岡工場の生糸生産量は、戦後初めて100万トンの近い実績を上げることができた。

また昭和31年度には生糸販売を円滑にするため、生糸の販売権をすべて三井物産に譲渡した。三井物産は官営期の明治10年からしばらくの間、トミオカシルクをフランスのリヨンで売りさばく仕事を担当したことがあるので、いわば2度目の経験ということになる。

昭和25年を皮切りに27年・28年と輸出生糸の高騰が続いたが、29年にはアメリカの可燃性

織物法の実施により、横浜スカーフ輸出は大打撃を与えられた。この頃の富岡工場の生糸生産量を見ると次のようであった。

年度	生糸生産高
昭和25年	約 99.5↑
26	111.5
27	120.0
28	140.7
29	136.0
30	176.9
31	255.8
32	223.3

前述の29年を除けば、まさに右肩上がりの盛況であったといえる。

昭和33年は横浜開港100周年を記念し、シルク関係大博覧会が横浜で行われたが、皮肉にも生糸相場は大暴落し、生糸輸出が不振となり、このため翌34年には農林省は桑園の減反を2カ年計画で行っている。しかし、35年には生糸相場は6年ぶりの高騰となった。

この間、片倉工業の本社では昭和31年に野崎社長から安田義一社長の交代があり、会社の改革を行った。主な点は従来の片倉一族からの独立性、会社間の命令系統の統一、派閥・学閥を廃した能力主義を経営の柱としたことである。

(今井 幹夫)

富岡製糸場の歴史を紹介しています。過去に掲載されたものを見たい場合は広報公聴係に問い合わせてください。